

発刊の辞



アジア経済研究所創立30周年に当り，温故知新に資するため本書を刊行する運びとなりました。

当研究所は，昭和33年に設立された「財団法人アジア経済研究所」を引き継ぎ，「アジア経済研究所法」の制定により昭和35年7月1日に特殊法人として誕生いたしました。

顧みますと，当時1950年代末の我が国は，いまだ世界銀行からの借款により新幹線が建設されるという被援助国の側面をもっており，他方，東南アジア諸国等に対し，賠償協定の締結をようやく終わり，輸出振興と未分離のさやかな経済協力を開始するという状況にありました。このような環境にありながら，当研究所設立を推進された諸先達は，我が国の対外援助，海外投資の健全な促進のために，発展途上諸国に関する客観的なデータの集積とこれら諸国の開発に対する正鵠を射た認識が不可欠であると洞察されました。そのために，当時の制約厳しい財政事情にもかかわらず，アジアのみならず，アフリカ，ラテンアメリカ等も含めた発展途上国について，政治，社会等の分野との関連をふまえた経済に関する基礎的な，かつ総合的な研究を推進せねばならないと確信されました。爾来30年間，当研究所は，発展途上国について，現地語を学び，現地語を通じて現地での生活・文化に親しみ，これを基盤として現地の調査研究をすすめるという「現地主義」を指針として，鋭意事業を推進してまいりました。

この間、各界から賜りました並々なぬ温かい有益なご指導、ご鞭撻に対し、心から感謝申し上げます。お陰様にて、アジア経済研究所法が第1条において目的として課した「アジア地域等の経済及びこれに関連する諸事情について基礎的かつ総合的な調査研究を行ない、並びにその成果を普及し、もってこれらの地域との貿易の拡大及び経済協力の促進に寄与すること」を遂行し、経済協力・開発問題の調査研究機関として海外からも高い評価を得るまでに至りました。

本書発刊に当り、武藤嘉文通商産業大臣のご祝辞をはじめ、初代副所長の川野重任氏、歴代会長・所長の小倉武一、岩佐凱実、篠原三代平、鹿子木昇、森崎久寿各氏、学界重鎮の山本登、永井道雄、石川滋、香西泰各氏、海外の研究所長等各氏、そして各方面にてご活躍中のOBの方々から、回顧談や今後の運営のあり方についてのご示唆など、ありがたいお言葉を賜わり、厚く御礼申し上げます。

20世紀の最後の10年をひかえ、世界はまさに激動のさなかにあります。我が国は、30年前とは様変わりに政府開発援助（ODA）供与国として世界有数の地位を占めることとなりました。経済協力の適切な推進のために、当研究所の責務は益々重要性を加えてきております。役職員一同先覚の初心を服膺し、目的達成に懸命の努力を盡す所存であります。本書は、過去30年間の活動をできるだけ客観的に回顧し、ご参考に供するとともに、足らざる点を謙虚に反省し、当研究所発展のよすがとすることを目指したものであります。各位におかれましては、本史をご一読賜わり、当研究所についてのご理解を深めて頂きますとともに、今後とも変わらざるご懇篤なご教示、ご支援を賜わりますよう切にお願い申し上げます。

平成2年10月

アジア経済研究所

所長 宗像 善俊